

1 高知市里山保全条例の概要

(1) 基本理念

「里山が現在及び将来にわたり市民が安全かつ健康で文化的な生活を維持するための重要な資源であることを認識し、次に掲げる指針<sup>※</sup>に従い、この限られた資源を将来の世代に引き継いでいくことを目的として行わなければならない。」

指針

- ・防災機能の確保、都市の生活環境の保全と回復
- ・生物種の維持、自然循環の維持その他自然の多様性に着目した自然環境の保全と回復
- ・地域の文化・歴史の学習・伝承の場として、市民参加を主体とした自然環境の保全と回復

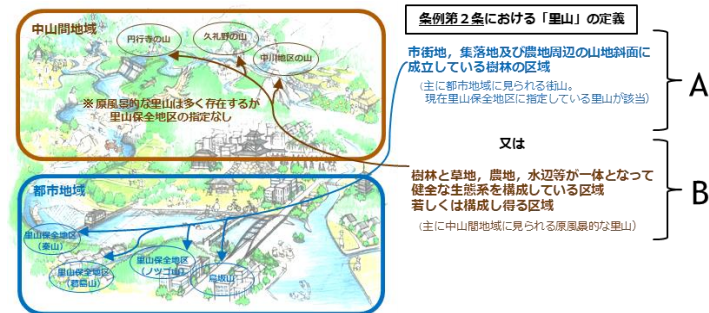
(2) 里山の定義



※都市地域及び中山間地域に見られる里山を条例第2条で定義しているが、助成措置を受けることができるのは6条里山（里山保全地区）のみ

① 条例第2条で定義されている里山 = 「2条里山」

- A 市街地・集落及び農地周辺の山地斜面に成立している樹林の区域又は
- B 樹林と草地、農地、水辺地等が一体となって健全な生態系を構成している区域若しくは構成し得る区域



② 条例第6条で定義されている里山 = 「6条里山」

里山保全地区：防災機能の確保、潤いと安らぎのある都市景観の形成、健全な生態系の保持、人と自然の豊かな触れ合いの確保又は歴史・文化の継承のために保全することが必要な里山を指定することができる。

2 6条里山（里山保全地区）の助成措置

(1) 現行の助成措置

① 高知市里山保全協定協力助成金

対象：協定を結んでいる土地所有者

② 高知市里山保全事業補助金

対象：ボランティア団体・市民活動・町内会・自主防災会・協定を結ぶ土地所有者等  
土地所有者等以外の者であって、当該土地所有者等からその里山に係る公益的機能の保全等を目的とした活動を行うことについて同意を得ている者（=利活用者<sup>※</sup>令和3年度追加）

補助対象事業の区分	補助率	補助限度額	事業内容
里山林整備事業	4分の3	750千円	樹木を対象に、防災・景観・生態系等の保全・里山活用を目的とする里山整備
竹林整備事業	4分の3	1500千円	竹を対象に、防災・景観・生態系等の保全・里山活用を目的とする里山整備
付帯設備等整備事業	4分の3	300千円	里山を構成する農地及び水辺並びに里山における付帯設備等の整備
里山利活用事業	4分の3	100千円	里山における実地調査及びイベント、体験学習等に伴う諸活動

(2) 助成措置の課題

- ・対象地が里山保全地区に限定されている
- ・助成を受けるには里山保全地区指定及び里山保全協定締結が必要であり、手続きに時間を要する

3 里山の目指すべき姿を踏まえた今後の取組

(1) 当面の取組の方向性



多様な主体による里山の多様な機能を「生かす」取組を実施

既存の助成金・補助金の手法によって、里山保全地区の維持に努める（条例制定当初の目的に適した手法であり、社会情勢が変化した現在でも一定の役割を果たしているため）

(2) 2条里山に対する鏡川流域関係人口創出事業の活用

① 事業概要

目的	施策
鏡川上流域で、様々な分野での担い手不足から、人による自然への適切な関わりが薄れ、流域の美しい自然環境が失われつつある課題に対応するため、鏡川流域の自然と人、人と人をつなぐ「関係人口」の創出・拡大を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度に運用開始したネットワークインフラ「まちのコイン（高知市版：ぼっちり）」（以下、『ぼっちり』と記載）の活用</li> <li>・「鏡川流域関係案内人」を中心とした鏡川清流保全の取組の支援及び情報発信</li> <li>・鏡川清流保全につながる実働の増加及び企業等との連携の強化</li> </ul>



② 現在の取組状況

地域内外の多様な主体の関わりを促進する鏡川流域関係人口創出事業は、里山を「生かす」取組と親性があるため、里山保全の取組において当事業の活用を推進している。

【具体策】

- ・既存の里山関連のイベントに「ぼっちり」の体験チケットを紐づけて、多様な人の関わりでの創出と可視化を目指している。
- ・6条里山を含めた2条里山を受講生発案のプロジェクトやイベント等に活用してもらうため、マッチングに取り組んでいる。
- ・受講生の取組を支援する仕組みとして、既存事業（里山保全地区指定と助成金・補助金、森林・山村多面的機能発揮対策交付金、高知市まちづくりファンド等）の活用を検討している。

(3) 令和4年度高知市里山保全審議会委員の主な意見

- ・外部主体との多様な連携への挑戦を後押しする制度設計が必要
- ・人々に里山保全に前向きに参加してもらうために、「楽しい」という気持ちを醸成する取組も必要
- ・里山利活用事業は里地里山の積極的な利活用の促進や活動団体の後押しとなり得る
- ・定住人口ではなく関係人口を地域の担い手として捉える点は今後の行政施策においても重要な視点
- ・地域内・外の住民が関わりながら居心地の良い環境を作ってほしい
- ・里山の存在意義は「利用されること」であり、日頃から住民が里山の存在を認知し、利用するのが理想
- ・里山の所有者や担い手が抱える課題への対処が必要。
- ・地域連携で支えることができる鏡川流域の強みを生かし、鏡川流域をはじめとした里山資源を生かした生活提案に基づく取組を検討してはどうか
- ・担い手不足を解消すべく交流事業を継続するのは非常に重要

◎ 里山保全の今後の取組として、里山を残すことを目的とした「土地所有者への助成金・補助金」という手法だけでなく、里山を生かすことを目的として、鏡川流域関係人口創出事業等により、多様な主体による多様な関わりを増やすことにも取り組んでいながら、次の手立てを検討していくこととした。



1 里山保全地区 (= 6条里山) の取組状況

秦山

- ・平成13年度 里山保全地区指定
- ・協定相手方：里山の土地所有者（指定区域全体の約半数）
- ・周辺の都市化が進む中で、秦山城跡を中心として、歴史的人物の墓が多く点在しており、幹線道路沿いの住宅地の中に残る緑として、歴史文化の面及び都市環境の面からも、身近な里山として保全を図るために指定。

(1) 現行支援制度の活用状況

- ①平成28・30年度 高知市里山保全事業補助金を活用した里山林整備（主な目的：支障木等の伐採による維持管理）
- ②例年 高知市里山保全協定協力助成金の申請

(2) 近年の特記事項及び課題

- ・秦山を保全するためのコミュニティがなく、管理・保全活動を所有者のみに依存している。
- ・土地所有者の中には、里山の維持管理の負担から、山を手放したいという者や相続税の軽減措置を検討してほしいという者もいる一方、近接する公道や住宅等に危害が及ばないよう適切な管理が求められている。



航空写真  
赤線：指定区域  
青色部分：協定区域

葛島山

平成13年度 里山保全地区指定  
協定相手方：葛島山保善会

(1) 現行支援制度の活用状況

- ①令和2～5年度 高知市里山保全事業補助金を活用した里山林整備（主な目的：景観及び防災機能の保持、支障木等の伐採による維持管理）
- ②例年 高知市里山保全協定協力助成金の申請

(2) 近年の特記事項

- ・令和3年度、里山保全審議会委員等と現地調査を行った。委員からは、葛島山の優れた景観を活かし、周辺の学校における遠足の行先としての活用可能性について提案があった。
- ・令和4年度、第2期協定の期間満了に伴い、第3期協定を締結した。
- ・令和5年度、葛島山の現地調査の際(写真①)、葛島山保善会代表から、補助金を活用した整備によって確保した景観を維持するには地域内外からの若者の関与が必要という意見があった。今後、地域の憩いの場、防災拠点等の機能の確立を希望している。



写真①



令和5年度 整備前



令和5年度 整備後

(3) 課題

- ・かねてから土地所有者が補助金の申請事務等の手続きに対して負担を感じている。
- ・土地所有者は多くの人に里山を利用してもらいたいと感じているが、地域に里山保全の担い手がない。

ノツゴ山

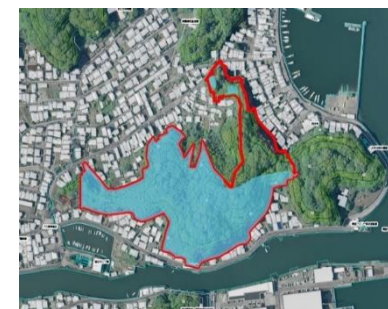
- ・平成25年度 里山保全地区指定
- ・協定相手方：梶ヶ浦防災会、土地所有者
- ・伐採・管理を行うことで、津波の避難場所や環境学習の場としての活用が可能であり、この地区の防災の面及び自然とのふれあいの面から、身近な里山として保全を図るために指定。

(1) 現行支援制度の活用状況

- ①平成28～令和5年度 高知市里山保全事業補助金を活用した里山林整備（主な目的：景観及び防災機能の保持、支障木等の伐採による維持管理）
- ②例年 高知市里山保全協定協力助成金の申請

(2) 近年の特記事項

- ・令和2年度から山の西側の整備を継続的に行い、見晴らしの良い景観及び広場空間の維持に努めている。
- ・令和2年度に梶ヶ浦防災会から「里山保全を担う人材育成や学生等との連携、防災拠点としての整備、市民に親しまれる里山としての景観づくりについて高知市の協力を求める要望書」が提出された。
- ・令和3年度には、里山保全審議会委員、梶ヶ浦防災会等と現地調査を行い、里山を「生かす」ための取組としてマウンテンバイク走行場の整備について検討を重ねた。調査及び検討の結果、階段昇降時の負担等の課題はあるものの、地域の子どもたちと共に小規模な整備から始め、山の地形に見合った広場空間を整備するなどの方策が検討された(写真②)。
- ・令和4年度、以前から行われていた国土調査の完了に伴い、協定対象地の一部に係る地積等が変更されたため、協定変更を行った。
- ・令和5年度、補助金を活用した整備の施行期間及び整備日数を例年よりも増やすことで、景観の維持につなげた。



航空写真  
赤線：指定区域  
青色部分：協定区域



写真②

(3) 課題

- ・土地所有者の中には、自身の土地を有意義に活用してほしいという者もいる一方で、高齢化による山の管理の負担から、高知市へ土地を寄付したいとする者や助成金の手続きを負担に感じている者もいる。
- ・梶ヶ浦防災会が中心となって、毎年、意欲的に補助金を活用した保全活動を行っているが、高齢化及び担い手の減少(写真③)により、地域住民だけで整備を継続していくことを困難に感じていることから、地域外からの関与を促していく手立てが必要とされている。



写真③



令和5年度 整備前



令和5年度 整備後

◎ 「協定締結」や「現行の助成措置（助成金・補助金）の手続き」に対して負担を感じている土地所有者がいるものの、里山保全地区として指定した当初のニーズは変わっておらず、むしろ、これら市街地の里山は、周囲に住宅等が近接して立地しているため、適切な管理を怠ると周辺へ危害が及ぶ可能性もあることから、審議会等からも定期的な維持管理の必要性が指摘されている。

よって、引き続き里山保全地区の指定及び協定を維持して、条例に基づく助成制度を活用した維持管理を行うことにより、目指す里山の状態に近づけていくものとする。



## 各里山の取組状況

## 2 里山保全地区以外の里山の取組状況

## 鳥坂山 ※所在地：高知市長浜

## 特記事項

- ・例年、森林救援隊が植樹祭を企画し、多くの地域住民等が参加している(写真④)。
- ・令和元年度、自身の山を防災拠点及び憩いの場として活用してもらいたいという所有者の要望を受け、現地調査及び森林ボランティア団体とのマッチングを行った。
- ・令和3年度、里山保全審議会委員等と現地調査を行い、里山保全地区以外の里山を「生かす」取組について検討した。調査及び検討の結果、広大な駐車スペースがあるため利便性は高く、山の起伏を活かして整備計画を立てればより高い効果が見込めるとの意見が得られた(写真⑤)。



写真④



写真⑤

## 円行寺の山 ※所在地：高知市円行寺

## 特記事項

- ・令和元年度、所有者から、自身の山を多くの人に活用してもらいたいという要望を受け、現地調査及び幼稚園とのマッチングを行った。
- ・令和2年度、所有者が新規購入を予定している円行寺の土地及び空き家について、里山保全審議会委員及び所有者と現地調査を実施した。調査の結果、空き家の活用法を企画し、実際に改修を行うまでの一連の流れを通じて学生等に関わってもらうことでより高い効果が見込めるとの意見が得られた(写真⑥及び⑦)。



写真⑥



写真⑦

## 南ヶ丘の山 ※所在地：高知市春野町

## 特記事項

- ・平成24年度にモデル事業地区に選定
- ・平成24年度に環境学習を全4回実施した。平成27～30年度に高知放送との共催事業として間伐体験を実施し(写真⑧及び⑨)令和元年度から令和4年度までは新型コロナウイルスの影響により開催を見送った。



写真⑧



写真⑨

## 久重地域の山 ※所在地：高知市久礼野

## 特記事項

- ・鏡川清流保全条例の景観形成区域候補地として、区域指定に係る現地調査、地域住民へのヒアリング等を行ってきた。ヒアリングの結果、指定によって地域にメリットが生まれれば嬉しいが、地域の一部分のみを指定することで地域の雰囲気は崩れてしまうのではないか等の意見が得られた。
- ・例年、久重地域連携協議会里山部会等による積極的な地域活動が行われている。
- ・令和5年度、「里山歩きとホタルの夕べ in 久重」「久重里山ウォーク」「春の七草フェスタ」等、地域主体で積極的にイベントを開催し、地域内外の多くの交流を生み出した(写真⑩及び⑪)。



写真⑩



写真⑪

## 中川地区の山 ※所在地：高知市土佐山

## 特記事項

- ・令和4年度、鏡川流域での自然や景観を活かした地域活動を行う優良事例として現地調査及び地域住民へのヒアリングを実施した。ヒアリングの結果、条例に基づく指定を重荷に感じる、指定により補助を受けるとは地域にとってプラスに感じる、指定を受けなくとも活動の継続は可能、行政には地域が望んでいる活動を応援する立場としての関与を期待する等の意見が得られた。
- ・例年、オーベルジュ土佐山を拠点に、ホタル祭り、彼岸花祭り等、地域住民主体の活動が盛んに行われている(写真⑫)。



写真⑫

## 桑尾地区の山 ※所在地：高知市土佐山

## 特記事項

- ・令和5年度、以前より植樹を実施予定であった桑尾地区と高知放送の意向が合致したため、毎年の経常予算事業である「24時間テレビ環境保護活動支援事業」を活用し、桑尾地区で里山整備を行った。

## 【事業概要】

事業名：24時間テレビ 環境保護活動支援事業 山姥の滝・ゴトゴト石周辺の里山整備事業

開催趣旨：清潔なまちのシンボル鏡川の源流にあたる土佐山桑尾地区の景勝地「山姥の滝」及び「ゴトゴト石」周辺の里山を、地域住民と土佐山学舎児童と一緒に整備し、植樹するなどして、環境保全に繋げるもの。

日時：令和6年2月28日(水) 9:40～11:35

場所：山姥の滝・ゴトゴト石周辺

対象：土佐山学舎児童1～2年生および教員、近隣住民(桑尾公民館)

特記事項：開催に向け、高知放送、地域住民及び樹木医の野島幸一郎氏と現地調査を実施した。中長期的な環境整備の視点で樹木医と地域住民が意見を交わす貴重な機会となった(写真⑬～⑭)。  
開催により、地域住民と土佐山学舎児童の世代間交流の機会が生まれた。また、参加者が身近な自然環境や里山保全に対して関心を持つきっかけとなった(写真⑮)。



写真⑬



写真⑭



写真⑮



3 鏡川流域関係人口創出事業を活用した里山関連の取組状況

里山歩きとホテルの夕べ in 久重

- (1) 概要  
久重地域の里山にて、里山歩きやホテルの観察会等を行うもの（主催：高知市工石山青少年の家 共催：高知市役所）。令和4年度に続いて令和5年度も、「ぼっちり」の体験チケットをイベントに紐づけて発行した（写真⑭～⑯）。体験チケットの例：里山ビンゴで揃ったら200ぼっちり、イベントの意気込みや感想を教えてください
- (2) 効果  
・多くの参加者が親子で体験チケットを利用した。  
・体験チケットで参加者からコメントを募集することで、イベント当日に限らず、イベント開催前及びイベント終了後も、鏡川流域の自然や人に対する継続的な関わりを創出することができた。



鏡川・桑尾沈下橋&古民家活用プロジェクト

- (1) 概要  
鏡川流域関係人口講座1期生が立ち上げたスポット。自身の所有する古民家や沈下橋を多くの人に活用してほしいとの思いから体験チケットを発行している。体験チケットの例：桑尾沈下橋の清掃に協力してください、目の前に鏡川が流れる古民家/半日利用権
- (2) 効果  
高知市内・外の人々が体験チケットを活用し、イベントの開催場所等に利用することで、中山間地域における多様な人の交流の場が生まれている（写真⑲～⑳）。



タケノコ食べて放置竹林解決プロジェクト

- (1) 概要  
鏡川流域関係人口講座2期生等が立ち上げたスポット。中山間地域等の課題である放置竹林問題に対して、「食べる」という消費者の目線で誰もが課題解決に関わることができるイベントの開催、体験チケットの発行等を行っている。体験チケットの例：「タケノコ食べてお月見する会 in 土佐山」の参加者募集 水煮のタケノコを美味しくする調理方法を教えてください
- (2) 効果  
高知市内・外の人々がこの取組に参画し、放置竹林解決に向けたアイデアの投稿や、スポットが開催したイベントに参加して実際に放置竹林の現場を訪れる等、自分にできる活動で放置竹林問題に関わっている（写真㉓～㉔）。



Feel度 Walk

- (1) 概要  
鏡川流域関係人口講座3期生がスポット「役に立たない塾」を立ち上げ、体験チケットを活用して参加者募集や情報発信等を行いながら、イベント「Feel度 Walk」を土佐山で開催した。  
※Feel度 Walk：地域を歩いて気になったものを撮影し、参加者同士でスケッチして共有することで、観察力などの感度（Feel度）を高める効果が期待されている活動  
体験チケットの例：「Feel度 Walk 体験会 in 土佐山」の参加者募集、お手伝い募集
- (2) 効果  
高知市内・外の人々がイベントに参加した。地域を散策して写真を撮ることで、鏡川流域の中山間地域における自然環境や地域住民の営みに目を向けるきっかけとなり、地域への理解が深まった（写真㉖～㉗）。



プレーパーク

- (1) 事業概要  
子どもは遊ぶことで自ら育つという認識のもと、子どもの自由な遊びを保障することを目的とし、都市公園のような遊具を使った遊びではなく、創造的な遊びを楽しむ場を提供する。
- (2) 里山における活用事例及び効果  
①NPO 法人みんなダイスキ松山冒険遊び場(以下、『NPO 法人松冒』と記載)との連携事例  
・組織概要  
愛媛県松山市内で、子どもが安心して遊べる場所を作るため、各地で定期的にプレーパークを開催する「プレーパークキャラバン」や、フリースクール、森のようちえん等の事業を実施している。  
・土佐山での連携事例  
令和5年12月、令和5年度鏡川流域関係人口講座の一環として実施した「かがみかわフェスタミートアップ 土佐山で遊ぼう！」にて、NPO 法人松冒が講師として参加し、土佐山の広場空間でプレーパークを開催した。  
②連携による効果  
土佐山の開放的な環境を活用し、親子で木工体験やビー玉遊び等、野外での創造的な遊びを楽しむ姿が見られた。地域外からも参加者が訪れ、地域内・外の人々が地域資源を活用して交流を楽しむ機会となった（写真㉙～㉚）。



- ③今後の方向性  
・プレーパークは、「生かす里山」に向けた施策と親和性があり、里山の公益的機能を生かした多様な主体による里山保全活動を推進する効果が期待できる。  
・来年度、高知市内の里山でプレーパークを開催すべく、NPO 法人松冒と今後も連絡を取り、開催場所及び開催予定日の検討、現地確認等を行う予定である（開催イメージ：葛島山にて、高知市里山保全事業補助金の里山利活用事業を活用して実施。「ぼっちり」を活用し、土地所有者と利活用者のマッチングを行いながら、地域の担い手の確保につなげる）。

